

16. 肺血栓塞栓症予防対策実施率

(解説) 「肺血栓塞栓症」とは、肺動脈に血液の塊である血栓が詰まる病気の事です。

悪性腫瘍手術や大きな手術後、ベッド上安静を長くしている場合に発症しやすいとされています。今回の指標では、手術のリスク分類を行い、中リスク以上の手術の前後で対策が行われている率を測定しました。対策に積極的に取り組んでいる病院は率が高くなります。

より高い値を目指しています。

(分子) 分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された退院患者数

(分母) 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を実施した退院患者数

	当院	全国		
		施設数	中央値	平均値
2018年度	90.9%	(141)	91.8%	89.7%
2019年度	88.4%	(138)	91.2%	90.2%
2020年度	90.2%	(141)	92.3%	90.9%
4~6月	90.4%	(138)	92.3%	91.2%
7~9月	90.1%	(140)	91.9%	90.9%
10~12月				
1~3月				

